

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第63回放送の概要 (2013年4月27日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なかちゃん (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
一ノ瀬悟

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) 武井咲です。献血ありがとうございますの声が届いています。わかきみ一なちゃん 8 才より。献血ありがとうございます、命をわけてくれて。ありがとうございます。生きるという贈り物。日本赤十字社。Lobe in action。

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正 12 年に誕生。今年で創業 90 周年迎えました。これもひとえに皆様のお陰と 心より感謝申し上げます。この先も、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を 提供し続けたいと考えます。どうぞよろしくお願ひ致します。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

(CM) 手作り和菓子 古賀屋のおはぎは 佐賀古賀家の がばいばあちゃんが 作ったお米を 佐賀っぽの親父と息子が 選りすぐりの小豆、砂糖、塩を使い 佐賀名物の 小羊羊羹に 負けないだけの味に 仕上げました。是非この味を ご賞味頂きますよう お願ひ申しあげます。本日は 手作り和菓子 古賀屋様 (電話 078-201-5185) の御協力を頂きました。

## 1. オープニング

本日は放送終了後、この番組はゆうかり放送委員会の提供番組になっているので、年 1 回の総会を開催し、その後「ゆうかりに乾杯放送 4 周年の集い」というバーベキューパーティを開催します。

## 2. ゲストコーナー (1): 兵庫県立大学 東日本大震災支援サークル Bridge 津田紘那さん、横山正人さん、柴田誠さん

皆さんはいずれも経済学部の 3 回生です。Bridge は 2 年前の 6 月頃に発足したもので、顧問の野津先生が交流している新長田の K F C (神戸定住外国人支援センター) が行っている、東北から神戸に避難されている方へ、支援物資を配ったり、韓国の円仏教から贈られた水ときゅうり水が、東北では受け入れの余地がないということで、それらの物資を神戸で配ったりすることから活動が始まった。支援活動については、学園都市駅周辺の流通科学大学のボランティア団体とも交流や情報交換をしている。

サークルメンバーは、既に社会人になった人が立ち上げ、今は自分達 3 回生がメインになり、2 回生と一緒に活動しており、間もなく新入生が入ってくる。現在の活動メンバーは 20 名ちょっとである。

新入生は結構興味を持ってくれるので、10名程の新メンバーを期待している。震災について一般の学生の間では意識が風化しているように感じるがあるので、Bridgeの活動を通じて意識をあげてもらいたい。

東北訪問の実績あるのは津田さんで、これまで4回訪問し、2回は神戸市社会福祉協議会の学生ボランティアバスで宮城県名取市の閑上地区に行き、仮設住宅での傾聴ボランティアや、畑づくりを楽しめるようにその手伝いや子供達と夏祭りをした。残りの2回は気仙沼を訪問し、高校生に対し、大学生としての体験談や視野を広げるために全国に色んな大学があることを話した。なお、津田さんはKFCが行っている、子供達に対する学習支援の活動もしている。放射能を気にして神戸に避難している親御さんは子供を遊ばせたいと考えているので、リラックスしてもらうための保養キャンプをKFCに協力している。保養キャンプの1回目は淡路の一宮高校（廃校）で、テニス部の子供達に遊んでもらうための合宿を行った。その他六甲山、しあわせの村でも行っている。淡路キャンプでは、福島では海に入れないため、子供達が大学生がついていけないほどとても元気に走り回っていた。震災の話題について、高校生の場合は関係のない話をしている中で、この子の家はこんなことになって大変だったということや日常会話のように話すことがある。その様子を見ると震災をある程度受け入れているのかなと思う。

活動資金はミネラルウォーターやきゅうり水の売り上げを充当するが、東北訪問の交通費は自費である。保養キャンプの費用はKFCや兵庫県の助成金を充当している。

Bridgeの活動としては、1月は新長田駅前や東遊園地の1.17追悼行事に参加、3月は学園都市駅で3.11追悼イベントとしてキャンドルセレモニーを開催している。また東北物産を販売するイベントを開催しているが、商品は宮城県から仕入れている。仕入れに際してはメンバーが東北に出向き、生産者の商品に対する思いなどを直接聞いて、販売する時に神戸の購入者に聞いた話を伝えるようにしている。

昨年生協で福島産の桃が販売されていたが値段は半分以下でも売れ残っていた。さくらさんは生協はきっちりチェックしているので問題ないと考え購入した。あこちゃんは阪神大震災の経験から、福島の産業が駄目になって行くのを見ておれないので、バウムクーヘンを作っている会社「バウムラボ樹楽里」を応援しているが、楽しんで東北物産を購入してもらえよう、若い人が神戸の人に勧めていくのはいいことである。

### 3. ミュージック : Bella Notte (安次嶺 悟)

関西で活躍中のジャズピアニストで美しい夜という意味の曲です。元はディズニーのわんわん物語の主題歌です。

### 4. ゲストコーナー (2)

Bridgeの活動相手は福島県からの避難者が多い。放送スタッフとしては、食品の安全性については、大学生であることから、放射能は怖いと言うだけでなく、正しく理解して説明をお願いしたいと思う。

(Bridgeとしては、メンバーの一人が福島について調べ、その結果を勉強会でメンバー同士で共有するようにしている。また保養キャンプの前に専門家から話を聞いたりしている。)

福島では農業や漁業が出来なくなり困っている方が大勢おられる。福島でも場所によっては問題のない地域もあるので、風評で生産物が売れないのは非常に気の毒に思うので、学生さんには今後の課題として正確に事実を把握して対応することを考えていただければと思います。

Bridgeのメインの活動として、東北物産の販売、保養キャンプ、1.17や3.11の追悼イベントは必ず行うことにしている。4月20日に新長田駅前のピフレホールで、避難している方に集まってもらいコミュニティを作ってもらうための交流会を行った(にじいろるーむ)。この日は他の交流会があったため集客があまりできなかった。避難している人はすでにいろんなグループに属し活動しているが、横の連携がとれていないように感じる。避難者同士の繋がりはあまりないが、避難者と地域の繋がりは出来あがっているように感じ、地域との交流を優先しているように思う。避難者支援をしているみちのく談話室(石堂直子代表)にはBridgeから手伝いを申し込んで活動している。

ENCAN（エンカン）プロジェクトは東北物産展のことで、「円環」は神戸と東北を円（縁）で繋ぐ意味があり、物産を東北から仕入れ、売上の一部を東北に還元しているのでプロジェクトの仕組みが円になっている。また仕入れの際に聞きとった話を神戸で伝えているので、御縁が繋げていければいいと思ったので、円環の「円」と御縁の「縁」をつなげたものです。物産展は昨年の学園祭から始め、これまでルミナリエ他何回か出展している。東北への仕入れ派遣はこれまでに3回行っており、仮設のお母さん方の作ったストラップ、ケーキ屋さんのシューラスク、さんまの昆布巻きなどを扱っている。仕入れに東北に行くと、販売だけと言うのは非常に多いが、話を含めてというのは少ないため、うれしい、是非お願いしたいと言ってくれる。神戸で販売する時に、購入者に東北の事、生産者の事を話すと、そのことで買ってくれる。東北の力になりたいと思っている人が一歩踏み出す機会になっていると思う。購入する人の世代はばらばらで、学生も結構買ってくれる。学生は先日の地震しか体験していないので阪神、東日本大震災は想像できないと思うが、東北の人から地震の事を聞かれた時は、神戸では人と未来防災センターなどで学習してきたことを話すようにしている。また、物産展で購入してくれる人が阪神大震災の話をしてくれる事がある。

津波で流されたガレキがアメリカに到達し、現地の人には困っているのだから、日本から行っている留学生が海岸清掃のボランティアをしてくれたらと思う。日本人会が募金にするか現地に人を派遣するか何かしようという動きがあるようです。

東北大震災に対する国民の意識の風化が始まっていると言われていたが、学生でもあり地道な活動しかできないが、友達に刺激になるよう、物産展などの活動を続け、伝え続けることが大事だと思っている。学生であるため、お金はなく時間もそれほどないため、出来ることは限られているが、伝えることは簡単に出来るのでそのように考えて活動を続けている。



2012年夏名取市訪問時（1年前と変わらず）



仙台市アルパジョンへ仕入れで訪問



福島御家族を神戸案内



県立大学内での交流会（そうめん流し）



3. 11 キャンドルセレモニー（学園都市駅）



1. 17 追悼行事での園児とのろうそく準備

## 5. なかちゃんコーナ：全国に広がっていく兵庫型「体験教育」

- (1) 兵庫では、子どもたちの豊かな人間性など「生きる力」を育むために、全国に先駆けて「自然学校」や「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」実施してきました。これら「体験教育」は文科省が注目して全国の学校で実施されるようになってきました。
- 兵庫県では、次のような6つの主な事業をやっています。
- (2) 小学校3年生では、里山や田畑、水辺などで動植物の観察や栽培など、自然とふれあう体験型の環境学習。「命を大切にする」という視点を大切に、保護者や地域住民の参加もあります。
- (3) 小学校5年生では、4泊5日以上の期間で集団生活での自然体験、「自然学校」で社会的自立心を育成します。自然の厳しさの中の活動で、子どもたちの連帯感、地域の人との交流など図ります。
- (4) 中学校1年生では、「青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～」で、芸術文化センターの管弦楽団「PACオーケストラ」「スーパーキッズ・オーケストラ」などの生演奏を体験して豊かな情操や感性を身に付けます。
- (5) 中学校2年生では、これが一番有名になった事業ですが、「トライやる・ウィーク」。職場体験、ボランティア・福祉活動、文化・芸術創作体験、農林水産体験などの活動でを行っています。地域の会社や役所などでの仕事、はたまた保護者の勤める職場などで、よく見られました。お父さんたちが子どもたちに見直される話も聞きました。さらに、生徒たちが自主的に地域活動に参加する「トライやる」アクション事業など、教育を通じて「地域コミュニティの構築」に向けた取組みもやっています。これらは、生徒の成長だけでなく、学校、家庭、地域社会にも良い影響を与えることに繋がっています。
- (6) 今は、高校でもやっているんです。高校生対象にした「高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～」では、年間5、6回程度、クラス単位でボランティア活動や、グループ単位による福祉活動など、学校が独自に企画して実施しています。祭りなどの地域イベントへの参画、里山づくりなどの自然保護、音楽部の生徒たちによる演奏会開催など、特色ある取組みが展開されています。複数校による共同企画もあり、学校間連携も進められます。一昨年の東日本大震災でも、1,000人以上の生徒が被災地で支援活動を実施しました。生徒たちの社会貢献への意識が深まるのは間違いありません。
- (7) また、「高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～」で、生徒たちが、将来自分たちの在り方、生き方を考えて、目標を持って主体的に進路選択ができるようにしたり、生徒たちの夢の実現への道筋を示したりします。実際には、いろんな職場経験、大学や公的機関などでの実地研修などが行われています。逆に、地域が学校を見直すきっかけともなったようです。
- (8) これら6つの主な体験活動は、小中高を通じて体系的に行われており、文科省が大いに注目して、

国の新学習指導要領～学校での具体的な教育方針ですね～に、この兵庫型「体験教育」をモデルにして、いろいろ充実したプログラムを明示しています。

- (9) これらは、兵庫県での一大災害、一大事件でもあった、1995年の阪神・淡路大震災、そして1997年の神戸連続児童殺傷事件（淳くん事件）を機に、その反省などから、中学生に社会、特に働く現場を見せよう体験させようと、1998年から始まったものです。
- (10) 実際、兵庫県が最初に「トライやる・ウィーク」事業で児童・生徒たちを社会の現場に投入することを始めたときは、まだまだ保護者側の戸惑いや、受け入れる社会、例えば会社などの職場側からは、安全確保とか世話する人員をさくとか迷惑話との印象もありました。それで、スタート時は、公的機関とか保護者の会社とかが率先してカウンターパートになり、今では、子どもたちも社会の一員であることの認識と理解で、社会全体がこれらの活動の広がりを支えてくれるようになってきました。今では、生徒たちのほか、一般社会に触れる機会の少なかった先生たちのための「先生のトライやる」事業もやっているんですよ。

## 6. あこちゃんの地域瓦版

ゴールデンウィーク期間中は相樂園、フルーツフラワーパーク、布引ハーブ園など神戸はお花畑になります。

5月18日(土) 11:00~17:00 学園都市駅横 ユニバードーム内において、兵庫県立大学の商大祭実行委員会主催のイベント「Eternal Bon Voyage」が開催されます。「永遠の旅」をテーマに世界各国のおいしい食べ物と楽しいゲーム、そしてたくさんのフリーマーケットがあります。Bridgeは、東北物産展と揚げアイスの模擬店を出店します。



## 7. 来月のゲスト

来月は兵庫県神戸県民局の連携・ビジョン課 川西千帆さんにお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：[yuukarinikanpai@gmail.com](mailto:yuukarinikanpai@gmail.com)